

経営比較分析表（令和5年度決算）

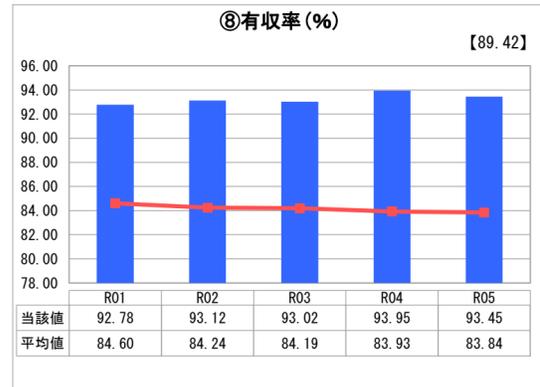
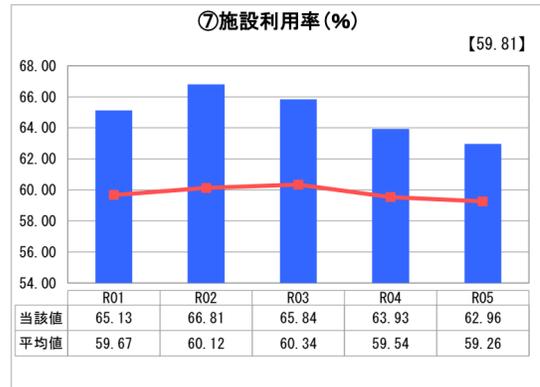
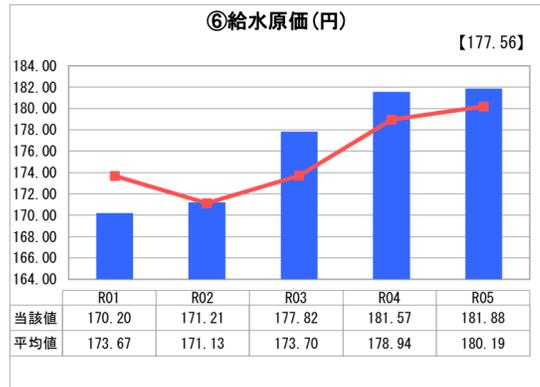
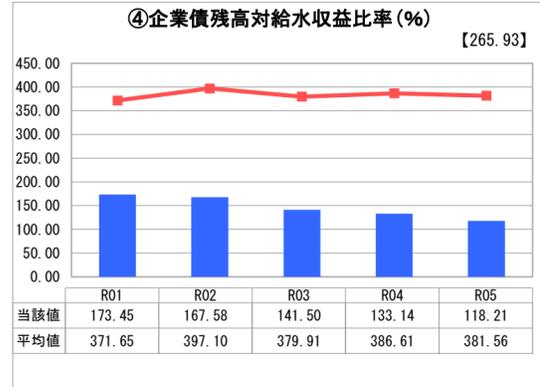
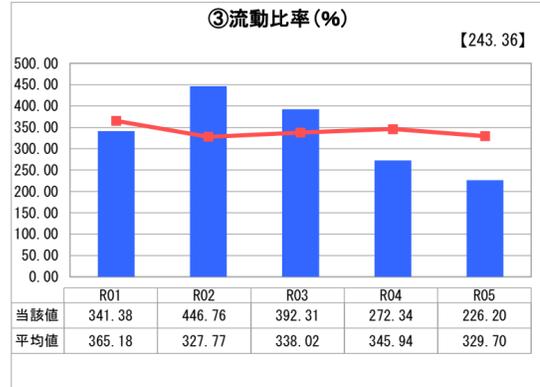
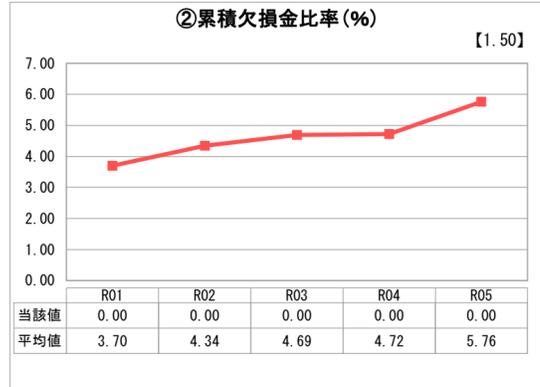
埼玉県 杉戸町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	86.32	99.95	2,805	

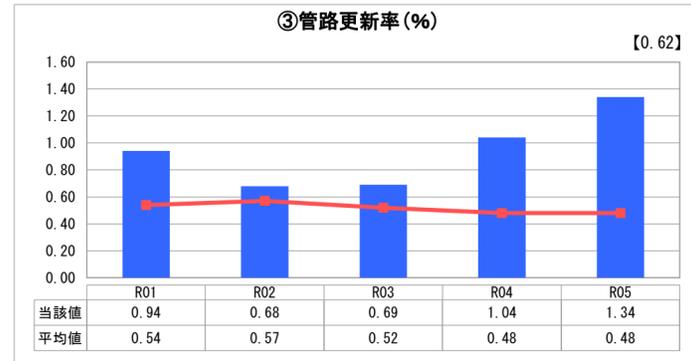
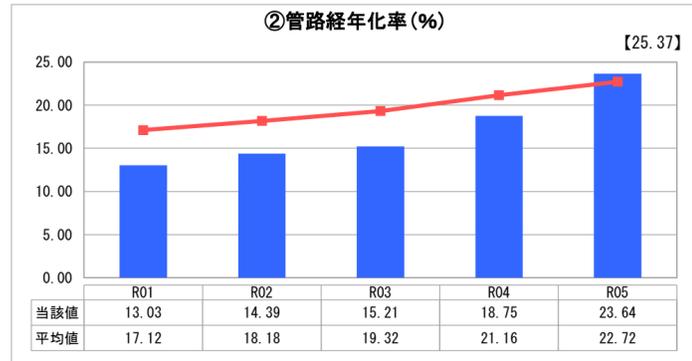
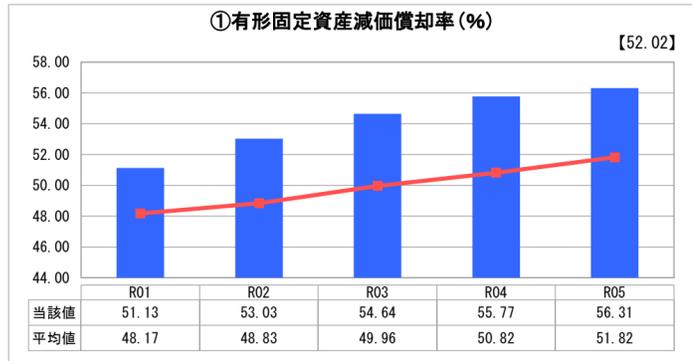
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,014	30.03	1,465.67
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
43,837	30.03	1,459.77

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率～100%そこそこの黒字ではあるものの、全体的には下降トレンドを描いています。令和5年度は、ぎりぎりの線で踏みとどまった状況で、翌年度以降は100%を下回ることが予想されます。主たる要因として、人口減少及び節水機器の普及等による給水収益の伸び悩み、物価高騰による経費の増とらえています。

②流動比率～令和5年度は、令和2年度の約半分(446.76→226.20)の数値となっています。これは短期間で現金が大量に流出し、支払能力の硬直化が進んだことを示しています。今後は企業債の有効活用を図り、現金の確保に努めます。

③流動比率～令和5年度は、令和2年度の約半分(446.76→226.20)の数値となっています。これは短期間で現金が大量に流出し、支払能力の硬直化が進んだことを示しています。今後は企業債の有効活用を図り、現金の確保に努めます。

④企業債残高対給水収益比率～類似団体平均値の半分以下(R5は1/3以下)となっています。減少傾向を踏まえ、今後は企業債の有効活用を図ります。

⑤料金回収率～平成26年度以降100%を超えておらず、料金で賄えていない状況が続いていることから、適切な料金水準についての検討を進めます。

⑥給水原価～コロナ(令和3年度以降)後、電気料金をはじめ諸物価高騰の影響により急伸し、類似団体平均値・全国平均値を越えています。今後もこの傾向は続く予想しています。

⑦施設利用率～類似団体平均値・全国平均値を越えており、一定の施設の効率性が図られています。

⑧有収率～類似団体平均値・全国平均値を大きく超え、特にここ数年は93%台と高い水準を維持しています。今後も有収率は高い数値で推移するとみています。

2. 老朽化の状況について

昭和60年ごろに大規模開発された「高野台地区」の施設(管路)が耐用年数を迎えてきており、施設の老朽化に大きな影響を与えています。

①有形固定資産減価償却率～類似団体平均値・全国平均値を上回っています。令和元年度に50%を超えてから数値の伸びが著しくなっており、施設・管路の老朽化が進んでいます。

②管路経年化率～令和5年度において4.89ポイントと一気に加速し、類似団体平均値を超える伸びとなっています。更新時期を迎える管路への対応策の検討を進めていきます。

③管路更新率～更新工事を大規模に展開しましたので、類似団体平均値の約3倍、全国平均の倍以上の更新率となりました。今後も、計画的に着実な管路の更新に努めます。

全体総括

豊富な現金を原資に平成9年度以降料金改定を実施せず経営努力により事業を継続してきたものの、料金回収率の低下、物価高騰による事業費の増高、施設の老朽化などにより、現在、大変厳しい経営状況となっています。

このような中、令和7年度において、水道事業の指針となる「経営戦略」の改定を実施します。計画期間における必要財源、必要経費の算出に努めるとともに料金改定についても言及し、水道事業経営の立て直しを図ります。